

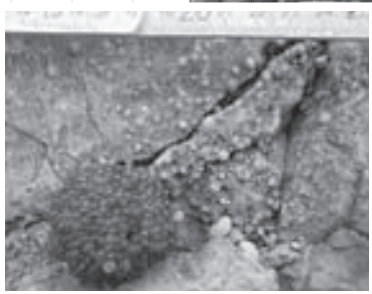
# 八峰白神ジオパーク構想

連載

第7回

## ジオポイントの紹介⑥

知名度を高めるため  
八峰町ジオパークから  
八峰白神ジオパークに  
変更しました。



ブリコとブリコ石

### 火山の豆!? —ブリコ石と巨大爆発—

今回は、火山豆石というめずらしい形の石の紹介をいたしましょう。「火山豆石」は、その名の通り豆のような形をした小さな石です。大きさはまさに豆くらい。小豆大からそら豆大までいろいろな大きさがあります。でも、形の方はまん丸で、豆とちがってどの方向にもころころと転がっていきます。ちょうど、イクラやブリコなど、魚の卵と似た形をしています。八峰町の火山豆石は、形も大きさも、ブリコの卵（全体でなく一粒）とほぼ同じ大きさをしています。たくさんの火山豆石が集まって固まりをつくっていますので、まさにブリコのような感じですが、私は火山豆石ではなくブリコ石と呼びたいところなのですが……（写真上・小）

では、ブリコ石（火山豆石のこと）のあるチゴキ崎近くの海岸線を見てみましょう。堤防をこえて海に出ると、そこにはかなり固い岩があります。よく見ると数センチの薄い岩が何層にも重なった地層（写真上・大）が見えます。この中にブリコ石があります。たいへんに固い石なのですが、よく見るとその中に丸い粒を見て取ることができます。

ブリコ石はどうやってできたのでしょうか？ 大昔（と言っても2000万年もの大昔のことです）ここは、今と同じく海岸の近くでした。激しくマグマが活動し、あちらこちらで噴火が起こっていたと思われるでしょう？ 実は、巨大な爆発が起こるのです。

みなさんのご家庭では、ときどき天ぷらやトンカツをあげることがあると思います。揚げ物をしている熱い油にまちがって水を一滴落とすと油が飛びちるという経験があると思います。ほんの一滴ですが、水と熱い油が混ざり合い、水が急速に沸騰して小さな爆発が起こるのです。水とマグマ（1000度もあります）が混ざりあった場合も同じような爆発が起こります。しかしながら、混ざり合う水とマグマの量が膨大なので、おこる爆発は巨大です。実際、明神礁というところでは、1952年に同じ種類の爆発が起こりました。その爆発力は巨大で原子爆弾に匹敵すると思われまます。2000万年前の八峰町で起こたのもこれと同じような巨大爆発です。

水とマグマが混じり合って爆発が起こりますので、周囲には、しめった爆風が吹き荒れます。そのような爆風の中から火山灰の団子のような固まりが生まれ、それがたまったものが八峰町のブリコ石の元になったのです。こうしてできた地層は地下深くに埋もれているうちに固い石になり、その後、今のようには海岸に顔を出したのです。

というわけで、八峰町のブリコ石は2000万年もまえの巨大爆発の跡だったので。ただし、ご心配なく。このような爆発が八峰町で起こる心配は全くありません。

秋田大学教育文化学部 教授 林 信太郎